

第47回 肝炎ウイルスに効果のあるくすり

肝炎を起こすウイルスに対してのくすりは、B型肝炎とC型肝炎に対するくすりがあります。どちらの肝炎も、肝臓の中にウイルスがとどまると肝硬変から肝臓に移行する確率が高く、感染したことによる自覚症状が少ないため、気づかずに進行してしまうことも多いです。自覚症状のない肝炎ウイルスの感染を見つける方法が血液検査のため、自治体などでは肝炎ウイルスの血液検査を推進しています。

それでは、肝炎ウイルスに対するくすりを系統別にみていきましょう。

○インターフェロン製剤

ペグイントロン：不明

ペガシス：PEG（ペグ）合成品→PEG+Synthesis（合成）→PEGASYS（ペガシス）

2剤共にペグインターフェロンという、従来のインターフェロンに“ペグ”というものを追加したことにより、週1回投与が可能になり、肝炎のインターフェロン治療では最も使われているくすりです。

フェロン：インターフェロンに由来

スミフェロン：住友製薬（当時）の“スミ”とインターフェロンの“フェロン”を合わせて命名

○C型肝炎へのくすり

レベトール：特になし

コペガス：co-prescribed with PEGASYS：ペガシスと共に処方する薬剤から

この2剤はリバビリンと呼ばれる薬です。リバビリンはペグインターフェロンと共に使用することで効果を発揮します。同じリバビリンですがそれぞれのくすりで使用できるペグインターフェロンが決まっています。

テラビック：telaprevir for hepatitis C

テラビックはペグイントロンとレベトールと共に使用することで治療の効果を高めた、C型肝炎に対する最新の治療法です。しかし、ほぼ必ず皮膚への副作用が現れ、時には重い副作用も報告されていることから、処方できる医療機関が限られているくすりです。

○B型肝炎へのくすり

バラクルード：B型肝炎を表す”B”と、～を閉じ込める、～を邪魔するといった意味を持つ“occlude”から命名された

ヘプセラ：不明

ゼフィックス：Zefixの頭文字Zはアルファベットの最後という点から多剤の商品名との差別化を意図し、efixはefficacy（有効性）から引用して組み合わせた。

今回は、鉄分を補給するくすりです。